

# オースティン・ピー州立大学

生産システム科学部 生産システム科学科 4年 桧垣佑太

留学期間 R7年8月24日(日)～R7年12月12日(金)

## 1. 留学の動機と準備

大学院での物理学専攻を見据え、専門知識と英語の習得を目指し、オースティン・ピー州立大学への留学を決意しました。英語学習に関して、当初は英検や TOEFL に取り組んでいましたが、大学院入試を見据えて令和6年1月からは TOEIC 対策に切り替えました。その結果、令和7年3月には目標とするスコアを取得することができました。渡米前の期間は、まず1カ月間高校数学の復習を行い、続く約3カ月間で大学数学、量子力学、統計力学、理系英語の予習に取り組み、留学生活に備えました。

## 2. 学業

現地では、量子力学、統計力学、現代物理学、光学(実験含む)を履修しました。特に大学院入試に直結する量子力学と統計力学には最も集中しました。統計力学では熱力学の要素が多く苦戦しましたが、学習を続ける中で、英語での設問をストレスなく読解できるレベルまで到達しました。帰国後、院試の過去問を見た際に既視感を覚えるほど、専門用語(日本語)と解法の理解が深まったと実感しています。

授業で学ぶアカデミックな英語表現と、現地の学生が使う日常会話表現には大きな乖離があり、リスニングには課題が残りました。

## 3. コミュニティとの関わり

学業の負荷が高在中でしたが、人との交流にも時間を割くよう心がけました。主に BCM (キリスト教の集まり) や教会、NBK (日本に興味がある人々の集まり)、パーティーなどに積極的に参加し、そこで友達を作ることができました。宿題が多かったため、毎日のように友達と図書館に集まって課題に取り組んでいました。NBK では、たこ焼きパーティーを開催して約50名の参加者を集めました。現在(2025年)、大学内の日本人の雰囲気は非常に良好で、今後もイベントを活発に行っていく動きがあります。

## 4. 留学を終えて

今回の留学を経験して、英語学習に対するモチベーションは以前より高まりました。留学後も現地でできた友人との連絡や、英語の動画視聴を継続しています。

